

ため池シンポジウム

～身近なため池とどう向き合えばいいか～

2019年3月31日(日) 世羅町甲山保健福祉センター

広島県には兵庫県に次いで全国で2番目に多い約2万カ所のため池があります。2018年7月の豪雨災害を契機として、広島県は農業用に使われなくなり管理が不十分なため池が人への被害を及ぼさないよう、想定される約500カ所の廃止工事を含め、総合的な防災・減災対策を検討しています。

農業用のため池の中には希少な動植物の生息場所となっているものも数多くあり、環境省は世羅台地と東広島市の湧水湿地とため池群を「日本の重要湿地500」として選定しています。

このシンポジウムでは、こうしたため池をめぐる現状や課題、ため池のもつ多面的な機能と活用について、農業者や市民の認識を深めることを目的として開催します。

(写真) 田打のふるさとを守る会とせら夢公園サポーターズクラブとで実施した外来種の駆除のための池干し (2017年10月14日)

プログラム

(開会 13:30 閉会 17:00)

■基調講演 (13:30～)

講師 みなみの たけし 南埜 猛さん (兵庫教育大学大学院教授)

演題 「SDGs (持続可能な開発目標) に向けたため池と地域の関係 (取り組み)」

※SDGs: 2015年9月の国連サミットで決められた持続可能な開発のための国際社会共通の目標。17の大きな目標と、それらを達成するための具体的な169のターゲットで構成されており、気候変動への対策、生物多様性保全や持続可能な自然資源の利用なども目標とされています。

■現場からの報告とパネルディスカッション (15:00～)

テーマ 「身近なため池とどう向き合えばいいか」

(パネラー)

- 南埜 猛さん (兵庫教育大学大学院 教授)
- 高田 善雄さん (広島県農林水産局農業基盤課 課長)
報告「今後のため池の総合対策について」
- 橋本 卓三さん (世羅・御調の自然史研究会)
報告「ため池の希少植物について」
- 中島 秀也さん (せら夢公園サポーターズクラブ 会長)
報告「ため池を活用した自然体験活動について」
- 重津 征二さん (農事組合法人くろがわ上谷 代表理事組合長)
報告「集落法人が担うため池の管理と課題について」

(コーディネーター)

- 白川 勝信さん (芸北 高原の自然館学芸員, NPO法人環境パートナーひろしま理事)

※裏面に講師, パネラー, コーディネーターのプロフィールを記載しています。

定員

100名

参加費

無料

会場

会場: 世羅町甲山保健福祉センター
世羅町西上原 426-3 TEL0847-22-3162

世羅町甲山保健福祉センター



主催: せら夢公園サポーターズクラブ, 世羅・御調の自然史研究会

協力: NPO 法人環境パートナーひろしま 後援: 世羅町, NPO 法人広島せらマルベリークラブ

お問い合わせ: せら夢公園管理センター TEL0847-25-4400 fax0847-25-4306 メール yume@mail.mcat.ne.jp

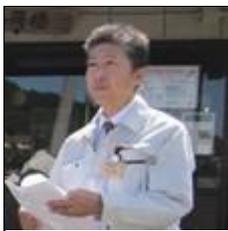
ため池シンポジウム [2019年3月31日(日) 13:30～ 世羅町甲山保健福祉センター]

■講師・パネラー・コーディネーター



みなみの たけし
南 猛さん (兵庫教育大学大学院 教授)

研究分野ではモンスーンアジア(日本、インド、中国、台湾)を対象とする水利研究を、教育分野においてはGIS(地理情報システム)の活用や地域教材の開発を中心に取り組んでいます。近年は溜池に注目し、溜池学の構築や溜池を題材にした教材開発や授業実践を学生の方とともに進めています。東条川疏水ネットワーク博物館会議アドバイザーも務めています。



たかた よしお
高田 善雄さん (広島県農林水産局農業基盤課 課長)

農業等の自然への働きかけを通じて維持されてきた里地里山で、ため池は、農業への役割だけでなく、生物の生息場所の提供や農村景観の形成などの生態系サービスの一部も担っています。昨年豪雨で、ため池の決壊による被害が出たことを受け、防災上の観点から利用されないため池は廃止を進めることとしていますが、生態系への配慮等も重要と考えており、その取組について、農業土木や建設環境の技術士としての視点も踏まえながら紹介したいと思います。



はしもと たくぞう
橋本 卓三さん (世羅・御調の自然史研究会)

1985年から2000年にかけて、研究者などとともに県内のいくつかの地域で、ため池の水質や水草の調査を続けました。その後も、折に触れてため池ウォッチングを楽しんでいますが、レッドデータ記載希少種の消滅など、近年進んでいるため池植生の深刻な劣化と景観の破壊を危惧しています。小規模なため池の保全管理には、いわゆる担い手と呼ばれる農業者だけでなく、意識ある「兼業小農」の果たす役割が重要だと考えています。府中市在住。



なかしま ひでなり
中島 秀也さん (せら夢公園サポーターズクラブ 会長)

2016年高校理科教諭を退職し、せら夢公園サポーターズクラブに入会し代表を務めています。湿地やため池、松林、広葉樹林などがある自然観察園を利用して里山セミナーなどを企画・運営し、参加者とともに世羅台地の自然を楽しんでいます。また、世羅町文化財保護委員として世羅台地の貴重な自然の保護活動をしています。世羅町在住。



しげつ せいじ
重津 征二さん (農事組合法人くろがわ上谷 代表理事組合長)

先祖から受け継いだ農地やコミュニティーを次世代へ継承するために集落型農業法人を設立し、その代表を務めています。法人が行う米作りで使用する水のほとんどを地域にある大小16のため池で賄っています。ため池や農地の周辺には、サギソウ、キキョウ、ヤマトミクリ、カスミサンショウウオなど、希少種を含め多様な動植物が生息しています。法人主催の農業体験イベントには、こうした自然とのふれあいを楽しみに毎年多くの家族連れが訪れています。ため池は先祖から受け継いだ大切な地域の宝です。世羅町在住。



しらかわ かつぶ
白川 勝信さん (芸北 高原の自然館学芸員、NPO法人環境パートナーひろしま理事)

広島県芸北地域で、湿原、半自然草原、里山林など、地域の人間活動によって維持されていた生態系の保全をテーマに博物館活動を展開しています。子ども、事業者、行政、ボランティアなど、様々な主体による自然への関わり方を見直し、新たな仕組みを組み込みながら、地域と自然を将来に残していく道を模索しています。2003年4月より芸北 高原の自然館に学芸員として勤務(現職)。2017年に第1回 ジャパンアウトドアリーダーズアワード 大賞受賞。専門は生態学(博士(学術))。

■主催および協力団体

せら夢公園
サポーターズクラブ

せら県民公園のボランティア組織です。園内に設置してある自然観察園の整備、同園での自然観察会のほか、農業用のため池の池干し体験や「生きものも育てる“ゆめ農業講座”」など、里山の自然の保全を担う人材の育成に取り組んでいます。

世羅・御調の
自然史研究会

尾道市で環境省が実施するモニタリングサイト1000里地調査(チョウ類、鳥類、カヤネズミ、アカガエル類、ホタル類、哺乳類、植物)に取り組んでいます。身近な自然を気軽に学ぶことができる“サイエンスカフェみつぎ”などの啓発活動も実施しています。

NPO法人
環境パートナー
ひろしま

自然、教育、福祉、まちづくり、産業、経済、防災、災害復興支援などの分野において、官、民、個人を問わず、環境の保全に関わる多様な主体のパートナーシップ形成やプラットフォームの提供を目的として2018年9月に設立したNPO法人です。